

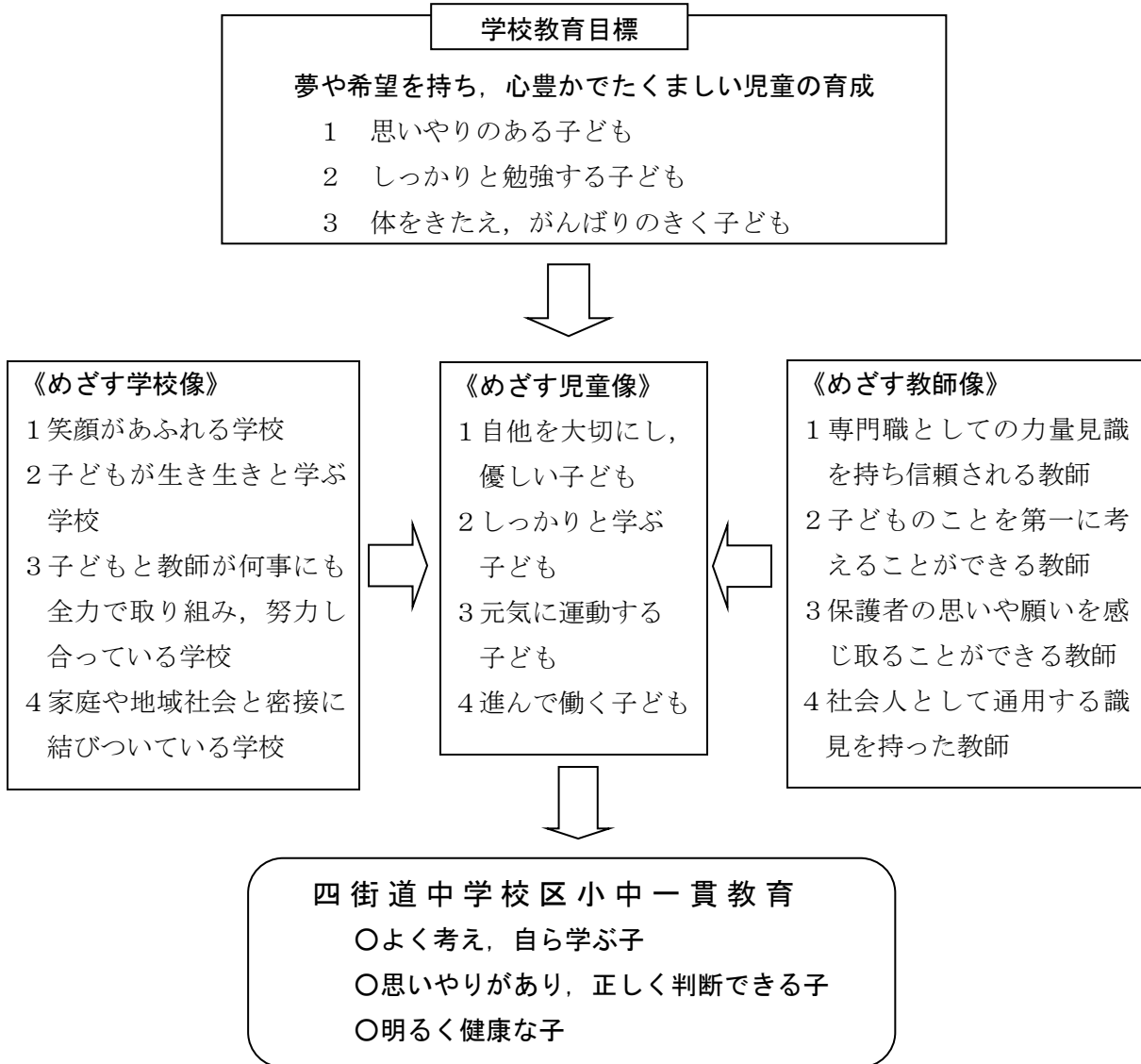
令和5年度 学校経営概要

1 経営理念

『子どものためになるか』ということをしてすべての判断の基本とする。

2 学校教育目標

—全児童が生き生きと活動する学校の創造をめざして—



よつわの子の約束

- よく見，よく聞き，よく書こう
- つよくて元気な体をつくろう
- わらいにあふれ，みんな仲良し
- のこさず，すみずみまでだまってそうじ
- こうしゃの中は，静かに歩こう

3 経営方針

(1) 生命尊重・人権尊重の精神を養い，いじめのない学校をつくる。

- ・友だちも自分も大切にし，心の痛みがわかる心情を育てる。
- ・自然環境や生き物を大切に作る心を養い，さらには環境保護にそれぞれが深く関わっていることに体験を通して認識させる。
- ・いじめの未然防止と早期発見に努め，いじめの傍観者をつくらない。

(2) 互いの個性を認め合い，切磋琢磨して喜びを感じる学校生活にする。

- ・一人一人の個性を大切にし，生徒指導の機能を生かしたきめ細かな指導をする。
- ・努力し合って互いに伸びる集団づくりに努める。
- ・学校行事などに児童を積極的に参画させ，主体的な活動を促し，達成感を味わわせる。

(3) 真・善・美に感動する心を育て，実践できる態度を培う。

- ・児童一人一人のよさの伸張を図る生徒指導・学習（道徳）指導を推進し，よりよい生活習慣の習得を図るとともに，よいことを進んで実践する態度を育てる。

(4) 集団生活を通して共に磨き合う心を大切にする。

- ・（可能な範囲で）縦割り活動を有効に活用し，協力・協調の中に生きる喜びや自己存在感・自己有用感を高め，自己実現が図れる体験活動を重視する。

(5) 国際理解教育を推進し，国際社会に生きる日本人としての資質を養う。

- ・日本の国や地域社会の文化と伝統に対する理解と関心を高める。
- ・諸外国の人々の生活や文化・歴史を理解し，敬意をもって他者を尊重する態度を育てる。
- ・インターネットの利用を通して，広く社会を知り，国際社会の一員として諸外国の人々に対して差別や偏見なく接することのできる態度を育てる。

(6) 個別の支援や配慮が必要な児童への適切な指導と交流教育に努める。

- ・特別支援学級と通常学級との連携及び交流を密にする。
- ・校内組織の確立および教職員間の連携を図り，全教職員で指導にあたる。
- ・インクルーシブ教育の構築を図るとともに，可能な限り，合理的配慮に努める。

(7) 教職員間の共通実践を大切に，協調の精神と責任ある言動を心がける。

- ・個々の創意と工夫を生かしながら，まとまりのある実践に努める。
- ・一人一人が学校経営に参画する意識を持つ。《四和ファミリー》

(8) 日常の充実した実践を基盤に，校内研修を積極的に推進する。

- ・教員一人一人が授業力の向上，指導法の改善に努める。
- ・各教科・領域等でT・Tや交換授業を積極的に行い，個に応じた指導の充実に努める。

- ・(可能な範囲で)地域の自然・施設・人材の積極的な活用を図る。(学校支援地域本部事業)
- ・学習指導要領の趣旨に則り、「何を学ぶか」→「どのように学ぶか」を重視した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。
- ・小学校外国語教育を推進する。(市内全小学校が教育課程特例校として指定)
- ・小中一貫教育の積極的な実践に努める。
- ・言語能力の確実な育成と体験活動のさらなる充実を図る。

(9) 学校環境の整備と施設・設備の効果的活用, 保全に努める。

- ・定期点検や日常点検を怠りなく実施し, 学校事故の防止に努める。
- ・教育的環境を常に整備し, 施設・設備の有効活用を図る。

(10) 家庭との連携を図った教育活動を推進する。

- ・学校, 学年, 学級だより等を活用し, 学校から家庭や地域への情報発信に努める。
(学校だよりの地域への回覧を再会する)
- ・授業参観を適切な方法で実施する。(土曜実施+平日実施)
- ・ホームページの充実を図るとともに, マチコミメール配信により, 個人情報に配慮した情報発信を行う。(学校・学年の様子が見えるもの, 小中一貫教育に関するもの, 特別支援教育に関するもの, 道徳の授業の様子が見えるもの)。
- ・学校行事について, 適切な方法で保護者の参加を募り, 連携を深める。
(地域行事, 地域の協力等については, 今後の情勢をみての判断とする)

(11) 感染症予防を確実にを行うとともに, 充実した学校生活を創造する。

- ・日常生活(学校・家庭)において, 予防行動(マスク, 手洗い, 消毒)を徹底させる。
- ・感染者に対する差別的な言動が出ないように, 日頃から適切な意識を醸成する。
- ・学校生活を送ることができることに感謝し, できることに最大限の努力をさせる。

4 本年度の重点事項

- 自己肯定感・自己有用感・自己存在感を育み, 共感的な人間関係を築く。(思いやりのある, 豊かな心を育む)
- 児童が自分の考えや思いを持ち, 課題の解決を通して, 主体的・対話的で深い学びの実現を図る。(学力の向上を目指す)
- 運動に親しみ, 活力にあふれる健やかな体を育む。(体を動かすことが好き+体力の向上)

5 研修

- 本年度の研究主題

『自ら学び, 課題を解決する児童の育成』～ICTの効果的な活用を通して(STEP2)～

- ・昨年度は令和2年度以前の研究主題『自分の思いや考えをもち, 互いに伝え合う児童の育成』を引き継ぎ, その手段の一つとしてのICTの活用を効果的に行い, 研究を推進した。今年度は, 活用上の課題や問題点を浮き彫りにして, その解決を図りたい。
- ・ICTの活用により学習指導要領にある資質・能力(情報活用能力・課題解決力等)の育成を推進する。
- ・タブレット一人一台環境の意味・意義を共有し, さらに伸長する。

- ・四街道中学区小中一貫教育の充実に向け、四街道中・和良比小と連携した研修を推進する。

6 働き方改革

- ・「四和ファミリー」をすべての職員が意識し、何事も協力し合い、組織で支え合って職務を遂行する。(早期の報告・連絡・相談の徹底)
- ・教育活動の内容や校務分掌を見直すとともに、一部の職員に業務が集中しないようにバランスをとり、結果として子どもたちに向き合う時間を確保する。
- ・現在ある校内体制を再構築し、会議や打ち合わせを厳選する。
- ・学校行事や体験活動等については、その目的と教育的効果を十分吟味し、実施の是非や内容の見直し等を含めて検討する。
- ・タイムレコーダーを活用し、勤務時間を可視化することにより、各自の意識を高める。
- ・児童の指導や職務遂行上の悩みなどを気軽に相談できる職場の雰囲気醸成する。

※今ある(人的)資源を有効に活用し、「つかれ」の蓄積をしない。

7 学校評価を受けての改善

学校評価のうち、＜生活面＞にあたる項目に関する評価は、児童・保護者・教職員ともに否定的な回答結果となった。それを受けて学校全体で取り組み、委員会活動等を通して啓発活動を活発化していきたいと考えます。

(あいさつ)「児童は、周りの人によくあいさつをすることができていると思いますか。」

※登校指導後に教室の見回りをしている。その際、元気に挨拶を返す学級とそうでない学級がある。この校長の見回りを利用して、元気なあいさつができる子どもを育ててほしいと思います。

(運動)「児童は、運動が好きで、体力の向上に努めていると思いますか。」

※コロナ禍において、運動自体に制限をかけなくてはいけない場面が多々あります。「運動が好き」「外遊びが好き」「体を動かすのが好き」という点に重点を置き、接触や密を避けた集団あそびや体の柔軟性を高める活動を取り入れる等、単に体力測定で測ることのできる力の伸長だけでない運動を念頭に教育活動を展開していきたいと考えます。

(食事)「児童は、好き嫌いをしないで規則正しくきちんと食事をしていると思いますか。」

※食生活は生涯に渡り、生きていく上での基本となるものです。この質問では、2つのことが尋ねられています。①「好き嫌いをしない」②「規則正しく」、どちらかという①についての否定的な回答が多いのでしょうか。「嫌い」という物は、「苦い」「酸っぱい」「辛い」「臭いがきつい」等、様々な理由が考えられます。栄養価や食材が料理になりまでの苦勞を知ることで、改善されるものもあります。指導の機会をつくりたいですね。

(自己肯定感) 自己の内面に関わる質問ですが、この(自己肯定感)は、(本校児童だけでなく、日本人全体が)低い傾向にあります。朝の会、帰りの会、学級の時間を活用して、自己肯定感や自己有用感・自己存在感を高めていきましょう。